

平成 28 年 5 月 27 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 笠原 久恵 様

議会報告会	1 班
班長	中村 彰男
	野田 宏規
	森田 洋一
	阿部 治正
	森 亮二
	徳増 記代子
	秋間 高義

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 28 年 5 月 14 日（土）
午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
- 2 場所 南流山センター会議室
- 3 欠席議員 無し
- 4 参加者数 市民 7 人 他班外議員 3 人、市職員 1 人
- 5 報告内容

①南部地域の諸課題について

南部地域とは／マーケティング戦略から見た課題／子育て世代から見た課題（保育・小中学校等）／高齢者から見た課題／共通課題（区画整理・浄水場改修・都市計画道路等）

②総務委員会からの報告

キックマンアリーナの開設／スポーツフィールドの移転

6 意見交換内容

市民（地区社会福祉協議会役員） 報告されたまちづくりの展望は間違っている。お店に幾ら声をかけてもダメ。この地域はつくばエクスプレスと武蔵野線の交点であり、秋葉原とつくばに近く、技術と商業につなぐことが出来る。江戸川などに自然もある。ソフトウェア会社の誘致、昼間人口を増やすことや商業を盛り上げることを追求すべき。江戸川沿いでサイクリングも出来、ソフト関係者には魅力的な土地だという点を活用すべき。

流山は障がいのある方にやさしくない。歩道や車道の段差解消などは、道路計画の段階から盛り込むべき。豊田市は段差がない。障がいを持っている人や高齢者に優しいまちづくりを行政に働きかけて欲しい。

議員 企業誘致、自然の利用など様々な可能性がある地域だ。今後の課題として検討したい。

議員 一昨年に障害者差別解消法が制定され、自治体レベルでも計画と実施が求められる段階になっている。差別解消法が行政に要求しているレベルは高い。障がい当事者がこれは差別だと主張すればそれに真摯に耳を傾け対応をすることが要求されており、単に言葉として「障がい者に優しいまちづくり」と言って済ますことは出来ない。議会の側からも引き続き具体策を求めていく。

議員 高齢者の立場に立った行政が必要。公園の手すりの設置、学校の高低差を解消して欲しい等々の要望への対応が必要。新しい施設はユニバーサルデザインになっているが、古い施設は改修などが必要。歩車道の段差解消、フラット化も国の法律の改正に追いついていない。議会としても行政に働きかけていきたい。

市民（木地区自治会役員） まず木地区の交通問題。県が主体となって区画整理事業を行っているが、横断歩道の整備は後手後手で、最近保育園近くにやっと出来たが、江戸川方面には一つもない。木地区は子どもが多いこと、また高齢者の観点からしても大問題。区画整理事業に対し市が市民との間に入ってやっていない。県なのか市なのか、どこが窓口なのか分かりにくい。

桜を植えて桜祭りなどをやって市の活性化に役立って欲しいと考えているが、既に緑・植樹計画が出来てしまっており、市民の声が反映されにくい。

ごみステーションの対策も問題。5区画以上販売する地域は行政が指導してい

るが、木地区は家が点在しており指導がなく、市の対策はちぐはぐになっている。不動産業者などへの行政指導が必要ではないか。

議員 木地区の方から寄せられた公園遊具の設置、公園の設置の要望は市に伝えた。「おっ母さん」の前の横断歩道の信号待ちの時間が長い問題、松戸との市境の問題などは課題だと受けとめている。

市民(木地区自治会役員) 「ヤオコー」入り口の交差点も信号待ち時間が長く、渋滞しやすい。流山街道から入ってくる車両の抜け道問題をこれから考えていく必要がある。

議員 ごみステーション問題は、新しい街区には設置されることになっているが、既成街区では隣のステーションは使えないとか、容量の問題など難しい問題もある。行政としては何軒か集まれば設置することになっており、住民同士で話し合うことが重要。

市民(木地区自治会役員) 市民では出来ないことがある。道路にステーションを置きたいと思っても、道路課は置かないでくれと言う。

市民(鰯ヶ崎地区住民) 市議会議員は国で決めた法律だから出来ないというのではなく、条例を作って対応することも必要。行政や議会がやることは巧遅、巧みではあるが遅すぎる。

議員 出来ないということではない。ボックスを道路上に置くことは交通問題もあり難しい。しかしステーション自体は、やむを得ずという場合は、広い道路であれば設置できないわけではなく、地元議員に声をかけて頂ければこれまで通り行政への働きかけはやっていきたい。

市民(南流山自治会役員) 南流山に住んでおり、ゾーン30規制などに取り組んできた。通り抜けの車両に安全運転の啓蒙やっているが、2年後にはもっと流入してくる。これで終わりではなく速度規制などが守られるようになっていきたい。昼間人口を増やす必要、自治会加入者を増やす必要についての話があった。南流山は自治会加入率30%だが、以前は勧誘を熱心に行っていた。ところが住民から勧誘への苦情があると、市は無理な勧誘はするなと言ってきた。もっと大きい問題は、南流山の区画整理は旧法でやっていたが、昭和40年代後半に新しい区画整理法になって、アパートや中途半端な規模のマンションが増えたこと。この

地域には市の人口の10.5%が住んでいる。おおたかの森周辺の開発や本町界限には力を入れているが、それだけで良いのか。南部地域にも何か方策が必要だ。

議員 高齢者の集まりなどにいくと、市の施策がおおたかの森地区に偏っていると、身近なところでの企業誘致の必要とか、南流山地区の問題についても話がよく出る。市民の皆さんから色々な話を伺っていくようにしたい。

市民（鱈ヶ崎地区住民） キックマンアリーナの費用対効果の試算は行っているか。タウンミーティングで市長に質問したがきちんと答えてもらえなかった。年間の利用者数、維持管理費、年間の返済額などはどれくらいを予想しているか。議会が監査などでチェックする必要があると思うがどうか。

議員 貴重なご意見だと思う。利用状況、費用対効果は重要だ。これからチェックをしていきたい。

市民（鱈ヶ崎地区住民） 利用者・市民への公平な対応を求める。料金も適正に設定して欲しい。儲けるためだけに作った体育館ではないのだから。

議員 使用料金が上がっているのは確か、施設が大きくなっていることの影響はあるが。議会からも声をあげて、苦肉の策として2分の1面、4分の1面の利用を可能にするなどの工夫をしているが、これからも考えていきたい。

議員 体育館の建て替えは、国の補助金が当初予想より少なかったので市債発行、後年度負担で対応した。指定管理者を入れているが、総務委員会でも経営のシュミレーションをやって欲しいとの質疑が出ている。これからも指摘をして欲しい。

市民（鱈ヶ崎地区住民） 市債は市の借金だ。繰越金など使った後で市債発行を考えるようにしてほしい。28人議員がいて何故そういうことをチェックできないのか。借金には利子も払わなければならない。議会としての監査は議員一人に任せてはいけない。多くの議員の目でチェックをして欲しい。監査委員の人数が条例で決められているのであれば、条例を変えれば良い。

市民（木地区自治会役員） スポーツアリーナの指定管理者がスポーツフィールドの管理も行うことになったと聞いている。どういうことか。鍵の管理などを住

民が行えなくなってしまうと聞いている。

議員 以前は体育協会が指定管理者だったが、管理者が変わった。旧体育館もスポーツフィールドを合わせて同じ指定管理者が引き受けていた。

議員 施設の規模が大きくなったことも、東京ドームシティが指定管理者となった理由のひとつ。

市民（地区社会福祉協議会役員） 地域支え合い活動推進条例が作られた。本来は震災などを受けての災害対策基本法の改正への対応、災害弱者への対応のはずだと思ったが、流山の実体は名簿提供をどうするかの問題にとどまっている。一番の問題は健康福祉部の範囲にとどまり、横断的なものになっておらず、災害対策基本法の改正に対応できていないこと。他市の状況も確認し、災害弱者対策としての取り組みをお願いする。

議員 推進条例を作ったことがゴールではないこと、適宜改正していくことを確認している。災害対策基本法の趣旨に沿ったものにしていくべく、今後も取り組んでいく。

市民（鱈ヶ崎地区住民） 財政白書の中でも、人件費と物件費の違いが説明されていない。正規職員は人件費、非正規は物件費というのはおかしいのではないか。人件費は17%に抑えていると言うが、物件費扱いの非正規を含めれば本当の人件費もっと多いはず。

管理職手当も多すぎる。

また災害や犯罪などに対する危機管理の意識が希薄だ。こうした問題は巧遅ではなく拙速でもよいから取り組んで欲しい。

市民（木地区自治会役員） 自治会の加入率の問題は、アパートへの対応が難しい。それぞれの自治会に任されているが、市として指針を出す必要がある。アパート住民の加入を勧めることは、防災面でも重要だ。自治会への委嘱が多い中で、備蓄の問題なども重要。

縦割り行政で、自治会側がいろんな課に行かなければならない大変さを何とかできないか。

自治会館は今は地域の人だけが活用しているが、ふれいあいの家や児童館として使用する可能性はないのか。

保育園問題は、今は不足が言われているが20年後はどうなるのかということも、

今から考えていく必要がある。

議員 自治会館はその地域の住民が活用するという考えで運営していると思う。地域の住民の要望が強ければ、行政とともに考えていける。

市民（木地区自治会役員） 住民の側からは声をあげにくい面がある。市からの提案や話し合いの提起があればやりやすい。それぞれの自治会には子どもの問題、高齢化の問題などそれぞれ抱えている問題があり、それらを相談できる窓口があれば良い。自治会館など既存の施設に助成をすることで公共的に活用することが出来れば、自治会も活性化すると思う。保育園を増やす必要があるが、将来のことを考えると高齢者施設に転換する必要も出てくるのではないか。

議員 子育て施設は将来的には高齢者施設への転用なども考慮している。保育士さんを介護士さんに転換することは簡単ではないだろう。

市民（木地区自治会役員） 近くの保育園に入れないという問題があるが、何とかしてほしい。

議員 待機児童多いが、空いているところは空いているという現状もある。

市民（木地区自治会役員） マンション付属の保育園が空いているが、マンション住民以外の子どもが入れない現状があるのではないか。

議員 状況を調査してみたい。

7 参加者から議会への要望

歩道や車道の段差解消など、計画の段階から盛り込んで欲しい。障がいを持っている人や高齢者に優しいまちづくりを行政に働きかけて欲しい。

ごみステーションの設置を、5区画以上販売する業者以外の不動産業者などにも行政指導をして欲しい。

南部地域には市の人口の10.5%が住んでいるのに、おおたかの森周辺の開発や本町の街づくりほどには力が入れられていないように思う。南部地域にも施策をお願いしたい。

キックマンアリーナの費用対効果について、議会でも試算やチェックを行って欲しい。

体育館の利用者・市民に対しては公平な対応を求める。料金も適正に設定して欲しい。

市債は借金であるとの認識に立って、市債発行は繰越金など使った後で考えてほしい。

地域支え合い活動推進条例は、災害対策基本法の趣旨に則って、災害弱者への対策を重視したものにして欲しい。

財政白書などの中で、人件費と物件費の違いを説明して欲しい。人件費は17%に抑えていると言うが、非正規の物件費を含めば本当の人件費もっと多いはず。管理職手当も多すぎる。災害や犯罪などに対する危機管理の意識が希薄。こうした問題は巧遅ではなく拙速でもよいから取り組んで欲しい。

自治会館など既存の施設に助成をすることで公共的に活用することが出来れば、自治会も活性化する。こうした問題は住民の側からは声をあげにくい面があるので、市からの提案や話し合いの提起が欲しい。それぞれの自治会には子どもの問題高齢化の問題などそれぞれ抱えている問題があり、それらを相談できる窓口があれば良い。

8 所感

市民の皆さんのご意見は、横断歩道、信号機、ゴミステーション、自治会加入の促進、バリアフリー等々、生活の現場から出てきた切実なものが多く、議論も活発で、有意義な議会報告会となった。当日は地元小学校の運動会と重なったこともあり、参加の働きかけに二の足を踏んだ面もあったが、そうした事情がなく、きちんとした声かけがなされれば、もっと多くの市民の参加が得られたはず。今後の可能性を感じる議会報告会であったと思う。(阿部 治正)

プレゼン内容をわかりやすくするように心掛けた。あまり意見はでないという予想に反して、積極的な提言があったと感じる。課題としては、依頼された内容を処理して次のステップに移る前に、次の議会報告会となり、中途半端

で自転車操業的になっている。それならば、年に一度の報告として出された課題をじっくり研究した方が、実りが大きいと感じる。参加者は少なくともよいので本音ベースでの意見を聴くことが大切と思う。(森田 洋一)

当日は、地域にお住まいの方々が日頃疑問に思っていることや、強い想いを聞くことができ、有意義だった。受け答えに関しても、市民の方が考えを述べ、会場全体となって、現状を話し、盛り上がっていった。議員間での関係も良好で、いい会だったと考える。しかし、人数に関しては、近年の例によると少なくはないまでも、やはりそれほど多い方がいらしたとは言い難いため、これからの課題としたい。(野田 宏規)

人口増加地域として注目されている流山市ではあるが、既存住宅地域では地域コミュニティの衰退の課題が目立ち始めている。議会(政治)や行政はそれらの問題を直視し、一つ一つ解決の方法を打ち出す必要がある。ただし地域コミュニティの問題に関しては議会や行政が打ち出す制度などだけで対応できる問題ではない。議会報告会の方を通じて住民と議員が課題や問題を共有し、意見を交わしながら、住民の方々と協働して解決する姿勢も必要である。今回同様に今後も建設的な意見交換会を目指したい。(森 亮二)

自分達の地域をよりよくしたい市民、障がい者にやさしいまちにという思いが伝わり、良い意見交換の場になったと思う。(徳増 記代子)

福祉関係、自治会関係、など様々な立場で活躍されている方々からの貴重なご意見やご要望があり、高齢者や障がい者等、それぞれの立場に立った視点からの街づくりを進める必要性を痛感しました。今後の議会活動に生かせるよう努力してまいります。(秋間 高義)

市民との地域課題等の情報共有、連携が重要であり、その手段としてそのような形がふさわしいか、よりよい形にしていけるかを改めて検討し、行政側にも働きかけていきたい。時代の変遷から、地域の中の助け合いが薄れている状況も見受けられた。課題解決に向けて行政側の対応ももちろんだが、議会としてもしっかりチェックし、それをバックアップしていく。そういった体制づくりに向けて、行政側と協議し、よりよい方向に進んでいくよう、議会としても今後も努力していきたい。(中村 彰男)